

子育て環境の充実に係る特別委員会 管外調査
令和元年8月5日から6日

1 常陸太田市議会（茨城県常陸太田市）

【調査事項】

「子育て上手常陸太田」の取組について

【調査目的】

本府が目指す「子育て環境日本一」の実現の参考とするため、「子育て上手常陸太田」をキャッチフレーズに、結婚から妊娠、出産、育児まで切れ目のない施策を展開している同市の取組について調査する。

【調査内容】

同市の平成26年の合計特殊出生率は1.10と、国の1.43を大きく下回った。そのような中、平成28年度から人口減少対策として、子育て支援や若い世代の移住促進に向けた事業に力を入れており、「子育て上手常陸太田」をキャッチフレーズに、結婚から妊娠、出産、育児まで切れ目のない支援を実施している。

子育て世帯への主な支援として、①新婚家庭の家賃を最大3年間・月額2万円補助、②乳児のおむつ代を最大2万円分まで助成、③保育料は1人目から半額で、3人目からは無料、④市内の病院では、午後10時まで子どもの夜間診療などを実施している。

これらの取組により、平成22年度に市内で生まれた子どもは249人だったが、平成29年度の市内小学校への入学者は315人と、66人増加した。また、「2018年版住みたい田舎ベストランキング」（宝島社発行「田舎暮らしの本」）では、人口10万人未満の自治体の中で「子育て世代が住みたい田舎部門」の1位に輝いた。

今後は、結婚から妊娠、出産、育児までと子育てしやすい環境を総合的に整備し、若い世代が住みたいと思う魅力あるまちにしていきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・「子育て上手常陸太田」関連の補助金の総額について
- ・定住促進住宅の入居条件について
- ・同市への転入者の就職先について
- ・今後の人口ビジョンについて など



調査事項を聴取

2 茨城県議会（茨城県水戸市）

【調査事項】

「茨城県子どもを虐待から守る条例」と児童虐待対策について

【調査目的】

急増・困難化している児童虐待への対応の参考とするため、議員提案による「茨城県子どもを虐待から守る条例」を平成31年4月に施行し、児童虐待防止対策に力を入れて取り組んでいる同県の施策等について調査する。

【調査内容】

全国の児童相談所における平成30年度の児童虐待相談対応件数は、159,850件（前年度比1.19倍）と年々増加している。同県においても、2,687件（前年度比1.2倍）と過去最多を記録した。

増加する児童虐待に対応するため、同県では平成31年4月、議員提案による「茨城県子どもを虐待から守る条例」を施行した。県独自の取組として、①児童相談所が把握した全ての児童虐待事案の警察への情報提供、②支援をしている家庭の転入・転出等の場合における適切な引き継ぎ、③児童福祉司の国基準を超える人数の配置をはじめとする児童相談所の体制強化などが盛り込まれている。

令和元年度は、児童相談所の体制が強化され、これまで県内各児童相談所の1つの課の中に置かれていた介入と支援の機能を「子ども虐待対応課」と「子ども地域支援課」の2つに分け、緊急時にスムーズに対応できるようにした。また、児童福祉司83人（前年度比14人増）、児童心理司38人（前年度比7人増）と、大幅に増員した。

今後も引き続き、関係機関と連携を図りながら、児童虐待の未然防止や家庭への支援に力を入れていきたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・一時保護の課題について
- ・体制強化・人材育成の目標値について
- ・「茨城県子どもを虐待から守る条例」を制定するまでの経過について
- ・条例の制定により好転したことについて
- ・条例の罰則規定について など



調査事項を聴取

3 ねむの木学園（静岡県掛川市）

【調査事項】

障害のある子どもたちの支援について

【調査目的】

障害のある子どもたちへの支援の参考とするため、身体障害や知的障害のある生徒たちに寄り添い、生徒の個性や感性を伸ばす先駆的な障害児教育を行っている同学園の取組について調査する。

【調査内容】

同学園は昭和43年4月、「障害のある子どもたちに教育の場を」という願いの下、身体が不自由な子どもたちのために日本で初めて設立された養護施設である。

「ねむの木村」として整備された敷地内には、身体障害や知的障害のある幅広い年代の生徒が暮らす学園のほか、特別支援学校ねむの木や生徒の作品を展示している美術館「どんぐり」などがある。

同学園の教育方針・運営方針は、①集中感覚教育、②生活指導と学校教育の一体化、③無学年制の教育、④環境の整備における細やかな配慮、⑤家族としてのねむの木学園、⑥積極的な対外活動である。

同学園の特徴は、生徒の個性や感性を伸ばす先駆的な教育を行っている点である。絵画や音楽、ダンス、詩、茶道、工芸などの教育に力を入れており、国内外で美術展やコンサートを開催している。

また、無学年制の教育では、教科ごとに生徒の能力や適性、興味などに応じたグループをつくり、それぞれに担当者がついて学習を進めるなど、生徒の状況に応じた手厚い教育を行っている。

今後も引き続き、生徒の個性や感性を大切にしながら、生徒に寄り添った生活指導と学校教育を行っていききたいとのことであった。

【主な質問事項】

- ・ 特別支援学校ねむの木の授業料について
- ・ 職員体制について
- ・ 地域の学校との交流について など



調査事項を聴取



施設を視察



施設を視察